

平成15年度事業概要

平成11年度から実施してきた文部科学省補助事業に関わるプロジェクト、國學院大學学術フロンティア構想「劣化画像の再生活用と資料化に関する基礎的研究」事業は最終年度である5年度目に入り、5ヵ年の活動の総括を行うとともに、その成果をインターネットおよび出版物の刊行、シンポジウム・研究会の開催等によって公開した。以下にその概要を述べる。

大場磐雄博士資料の電子情報化と公開

写真資料については、平成11年度以来行ってきた電子情報化を終えて分類・保存を行い、インターネット上で公開しているデータを随時更新している。

乾板の保管箱にみられる文字資料についてはテキストデータ化を、追加写真資料については数量・状態の確認作業を終えた。

また、昨年度までに引き続き、大場資料のうち調査時の図面・遺物実測図・拓本・絵葉書・プリント・スケッチ等として一括されている資料の目録を作成した。目録作成が終了した歴史時代資料の前半にあたる部分については、本事業報告の資料編に「大場資料目録Ⅴ．歴史時代編Ⅰ」として掲載した。これまで作成した目録は、『大場磐雄博士資料目録Ⅰ』として刊行した。

システムの点では、データ化したガラス乾板とガラス乾板の保存袋上に見られるメモ書きについて、データ上で同時に検索して閲覧できる電子情報システムを株式会社堀内カラーとの共同研究により作成した。これにより、これまで蓄積されてきた画像資料をデータ化し、加えて資料のもつ情報を同時に検索するシステムが確立された。

柴田常恵資料の電子情報化と公開

昨年度に引き続いて、柴田常恵資料のうちアルバムに収められた写真の電子情報化の作業を行い、東日本を中心に全体の約半数(2733枚)にあたる部分を収録した『柴田常恵写真資料目録Ⅰ』を刊行した。

折口信夫博士資料の電子情報化と公開

本学文学部の付置研究所である折口博士記念古代研究所所蔵の写真画像資料のうち、歌舞伎関係絵葉書を対象に電子情報化を進め、今年度2452枚についてのデータベース作成を終えてホームページ上に一部の公開を開始した。別途この資料については平成14年度から立命館大学アトリサーチセンターとの共同研究を行っている。

桜井満博士資料の電子情報化と公開

すでにWebで公開している桜井満写真資料について、それぞれの写真の解説文を作成し、Webでの公開作業を開始した。

他機関所蔵資料の調査

昨年度までに本学以外のいくつかの大学・博物館・社寺等の所蔵資料について調査を実施してきたが、本年度は昨年度に続いて大阪府柏原市に所在する児童福祉法人武田塾の資料を実地調査した。

宮地直一博士資料調査

昨年度より保管・管理している宮地直一資料については、目録作成の準備を開始するとともに、写真資料の数量・劣化度の確認を行った。

シンポジウム・研究会等の開催

昨年度までに続き、研究成果の公開の一環としてシンポジウムおよびフォーラム（研究会を改称）を開催した。ここでは、5年間の総括や、実行委員等による各分野における画像資料についての研究成果の発表および討論を行った。人文科学系の各分野において画像資料がもつ高い資料的価値、電子情報化や公開にあたっての課題等について指摘された。画像資料を媒介として各分野間で共通認識がもたれるようになるとともに、画像資料をめぐる現在の状況が明らかになった。それぞれの開催日・報告者・論題等は以下の通りである。

・平成15年7月12日（土）

学術フロンティア画像資料研究フォーラム「人文科学と画像資料研究」Ⅰ

荒井裕介氏「学術フロンティア作業報告—大場磐雄資料編」

倉石忠彦氏「画像資料と民俗誌」

小林達雄氏「考古学的情報としての画像」

・平成15年10月25日（土）

学術フロンティア画像資料研究フォーラム「人文科学と画像資料研究」Ⅱ

田中秀典氏「柴田常恵資料の保存・整理作業」

青木繁夫氏「画像資料と保存科学」

宮家 準氏「かたちとところ—柱の信仰と儀礼をめぐる—」

・平成15年11月1日（土）

学術フロンティアシンポジウム「画像資料論の可能性」

杉山林継氏「学術フロンティア事業の成果と今後の展望」

池田栄史氏「沖縄県における映像資料の保存と活用の現況」

小川直之氏「画像資料と民俗学」

齋藤ミチ子氏「記録されたイザイホー—画像から見た祭祀状況と聖域の変容—」

黒崎浩行氏「メタデータ配信による画像資料活用の可能性」

ディスカッション司会：小川直之氏 進行：粕谷 崇氏

・平成16年 1月30日（金）

学術フロンティア画像資料研究フォーラム「人文科学と画像資料研究」III

高塚明恵氏「折口信夫資料の整理作業」

山内利秋氏「記録に残された文化財をいかに現代に生かすか？」

茂木 栄氏「戦後日本の映像記録について」

刊行物による成果公開

資料整理・電子情報化の成果として、大場磐雄資料については旧石器時代から古墳時代までの部分を『大場磐雄博士資料目録I』として刊行した。柴田常恵写真資料については全体の約半数（2733枚）にあたる東日本を中心とした部分を『柴田常恵写真資料目録I』として刊行した。また、シンポジウムおよびフォーラムの成果は『國學院大學学術フロンティア事業 研究報告 人文科学と画像資料研究 第1集』として刊行した。

Web サイトにおける成果公開

本プロジェクトの成果を広く公開するためにWebサイトを開設している（URL <http://www2.kokugakuin.ac.jp/frontier/>）。今年度は、昨年度の事業報告の内容を掲載したほか、シンポジウム・フォーラムの告知や概要の報告等を逐次公表した。また、英語版に加えて中国語版を新たに開設し、インデックスとコンセプトのページを公開した。

他機関からの資料利用請求

Web サイトや事業報告で公開した資料および作業が進行している資料について、以下に一部示したように、他の研究機関や研究者および教育委員会等から、学術研究目的あるいは教育普及活動を目的とする利用請求や問い合わせがあった。資料利用の需要は次第に増しており今後も資料の活用がより増加することが見込まれる。

利用請求者	請求資料
長野県松本市教育委員会	大場磐雄資料
埼玉県富士見市教育委員会	大場磐雄資料
千葉県木更津市教育委員会	大場磐雄写真資料
NHK福井放送局	武田塾所蔵写真資料
	他

他機関との交流等

吉備国際大学文化財総合研究センターの修復・分析・収蔵施設を視察するとともに、文化財に関する意見交換を行った。今後必要となる検索システム等に関する設備・技術については、株式会社東芝の情報制御事業担当者と意見を交換した。また、本プロジェクトの活動内容および施設について園田学園大学および奈良県立橿原考古学研究所からの視察を受け、意見を交換した。

本年度事業の成果

本年度の事業で特に成果があったのは、次の5点である。

まず1点目は、喫緊な課題であるガラス乾板の保存法ならびにその電子情報化について、大場磐雄博士の資料約4000点の処理から具体的な方法を確立できたことである。次に、画像資料の資料化ならびにWeb公開の準備の過程で、画像と文字情報をリンクさせたかたちでの検索方法が確立できたことが挙げられる。3点目は、祭祀考古学分野の先駆者である大場磐雄の画像資料、文化財保護分野で先駆的な役割を果たした柴田常恵の画像資料、民俗学・国文学分野で多くの理論提示を行った折口信夫の画像資料などについて、一般公開の準備を整えることができたことである。4点目には、各地の教育委員会・博物館・社寺などでの劣化画像・古写真の保存、再生と資料化についての取り組みの重要性が喚起でき、今後の文化財保護ならびに学術研究における画像資料の位置づけを高めることができたことが挙げられる。5点目は、國學院大學が所蔵する人文科学分野の諸資料について、学術資産として統括的に位置づけていくための基盤整備が進んだことである。

これに加え、以下のような副次的成果があった。

本プロジェクトは劣化画像の再生活用と資料化に関する基礎的研究であったが、画像資料の保存再生を基礎作業とするため現在の画像資料の保存活用についてのシステム構築が行えた。

また、デジタルアーカイブス技術やデータベースシステムといった成果の公開や活用に関する手法が得られ、大場磐雄資料、柴田常恵資料、折口信夫資料などの再生と資料化によって、考古学、民俗学、文化財学、博物館学などの諸講座の教材開発のための資料提供ができるようになった。さらに、本プロジェクトは劣化画像を対象としたが関連資料として文字資料なども含まれており、人文科学資料全体に関する総合的な資産化の方法について検討する基盤ができた。

劣化画像の再生保存の実作業は当初の目的を実現でき、人文科学分野、なかでも考古学・民俗学・宗教学・文化財学での画像資料の資料化に関する問題点が析出されて基礎的な研究は進んだが、さらに画像資料についての資料学としての深化と統合が不十分であり、今後の課題となる。

(加藤里美・田中秀典)